

いざという時 慌てないための介護の予備知識



突然親が倒れたら、 あなたは仕事を辞めますか？

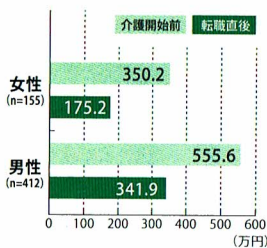
まずは相談。

ひとりで抱えこまないこと

「うちの親はまだ大丈夫」そんな風に思っているにも、親の介護は仕事の都合や家庭の事情に関わらず、突然あなたの身に降りかかるもの。そうなった時、まず何をすべきか：即答できるでしょうか。

現在、肉親の介護のため「介護離職」をするビジネスパーソンは年間10万人に及びます。「自分で親の世話をしたい」その気持ち自体は美しいものですが、高齢者の介護の負担は月日とともに重くなることはあっても、軽くなることはありません。そのため、自分だけで面倒を見る、と決まってしまうと、いつしかその負担に

介護離職(転職)は
収入を大きく減らす原因に



NPO法人
となりのかいご
代表理事

川内 潤
Jun Kawauchi

上智大学文学部社会福祉学科卒業。老人ホーム紹介事業、外資系コンサル会社、在宅・施設介護職員を経て、NPO法人「となりのかいご」を設立し、現職。ミッションは「家族を大切に思い、一生懸命介護するからこそ虐待してしまう悲劇を絶つ」こと。

耐え切れなくなり、介護離職、そして親子で共倒れになってしまふ。実際の介護家庭のサポートを通じて、それを痛感してきました。では、どんな選択肢があるのか。まずは、専門家に相談して情報を集めましょう。困ったときは親の住まいのある市町村の地域包括支援センターに電話することです。大事なのはひとりで抱え込まず、いろいろな人に頼り、任せること。仕事と介護は天秤にかけるものではなく、働きながら介護と生活との両立を考えるべきなのです。次回からは、そのための賢い任せ方についてお話ししましょう。

「もし明日、親が倒れても
仕事を辞めずにすむ方法」

川内 潤 著

親の面倒は子だけが見るべき？
介護のプロが、介護で本当に大切な心構えと任せ方をやさしく紹介。



Q & A

Q 離れてひとりで暮らす親の様子が心配です。
仕事を辞めて、実家に帰るべきでしょうか？

A 同居していない親の異変は、入院など突発事があって初めて気付く場合が多いもの。そんな時、親の居住地の「地域包括支援センター」に電話で相談してみましょう。本格的な介護がスタートする以前から、専門家が心強い味方になってくれます。